

## 第4回みんなで朝ごはん事業検討会 会議録

### 1 日 時

令和元年 11 月 18 日(月)18 時 30 分～19 時 50 分

### 2 会 場

磐田市役所本庁舎4階 大会議室

### 3 出席者

検討会メンバー12 名(2名欠席)

村上 勇夫(磐田市自治会連合会 会長)  
伊藤 富次夫(豊浜地域づくり協議会 会長)  
吉添 繁雄(南交流センター センター長)  
大杉 達也(豊岡中央交流センター センター長)  
山下 重仁(磐田市社会福祉協議会 事務局長)  
吉野 武夫(中泉地区地域づくり協議会福祉部会 部会長)  
三上 和代(南御厨地区社会福祉協議会 会長)  
清水 孝彦(竜洋西小学校 校長)  
萩田 鎮哉(磐田中部小学校 PTA 会長)  
堀内 大義(竜洋東小学校 PTA 会長)  
大橋 弘和(青城小学校 PTA 会長)  
大畑 邦子(豊岡北小学校 PTA 会長)

事務局7名

鈴木 雅樹(秘書政策課長)  
伊藤 豪紀(秘書政策課 部付主査兼政策行革推進グループ長)  
松下 公彦(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)  
鈴木 基輝(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)  
宮本 典寿(地域づくり応援課 部付主幹兼課長補佐兼地域支援グループ長)  
岡田 佐栄子(こども未来課 部付主査兼こども支援グループ長)  
松井 信治(学校教育課 主幹兼指導グループ長)

傍聴者2名

## 4 内 容

### (1) 開会

### (2) 検討「検討会における意見とまとめ(案)について」

事務局

(資料)を説明)

メンバー

学校別にどの程度の需要があるか調べてあるか。需要がわかると人集めをしやすい。

事務局

- 需要の調べはしていない。この事業は、生活リズムの改善や朝ごはんの大切さを伝えることを目的としている。子どもたちには、みんなで食べることの楽しさを感じてもらい、担い手の方には、地域の子どもを地域で支える雰囲気をつくっていただきながら、多くの児童に参加してもらいたいと考えている。
- 実施する学校は、教育委員会を通じて学校の状況を把握しながら、選定していきたいと考えている。

メンバー

事業の必要性は、担い手や保護者にどのように説明していくか。

事務局

具体的な説明の仕方は記載していないが、事業の趣旨を理解していただく必要はあると思っている。何らかの形できちんと説明していく。

メンバー

事業の目的をもっと明確に出したほうがよい。担い手を集めるときにも、わかりやすい目的が必要。

事務局

行政はこれまで、多くの方たちに協力いただきながら、朝ごはんの重要性について取り組んできた。ところが、ここ5年間で朝ごはんを食べていない子が倍増している状況にある。行政として、非常に危機感をもっている。これまでの取り組みは一定の効果があったと思うが、このような状況のなかで、同じことを続けても、歯止めがかかるとは考えにくい。新しいことを様々な方向から取り組んでいく必要がある。この事業は、そういった取り組みの1つ。この事業に興味がありそうな団体や個人に対し、声掛けや説明に回らせていただいている

が、この話をすると、ほとんどの方が、事業の必要性について納得してくれる。磐田市の朝ごはんの現状がわかり、事業の必要性を理解してもらえるような資料は必要だと感じている。

メンバー

好き嫌いや、パン食ばかりであるとか、お母さん方に対して、「子どもの朝ごはんについて気になることや心配ごとがありますか」というアンケートをとってはどうか。多かった意見を目標に掲げるという方法もある。

メンバー

朝ごはんを摂ることの大切さを子どもにわかってもらうよりも、楽しんで食べることを通して、朝ごはんを食べるという習慣づけに結び付けることが大事だと思う。みんなで食べることで、楽しんでついつい食べてしまうということもある。

メンバー

- 親としては参加者数と、登校の安全確保が気になる。
- PTAとしては、教員の負担軽減を進めている中で、負担増となることは難しい。

事務局

「楽しんで食べる」ということがキーワード。楽しい雰囲気があれば、子どもたちは参加しない。担い手にも「やりがい」が生まれ、継続につながる。

メンバー

- 実施できれば、絶対に子どもたちにとって良い事業だと思う。まずやってみればよい。
- 1階に家庭科室があるとか、教室に近いなど、学校として条件が良いところで、週1回程度からはじめ、徐々に実施校を広げていくほうが、学校としては取り組みやすい。教員に負担がかからないように注意しなくてはならない。

事務局

学校とは、教員の負担にならないよう調整していかなくてはならないと考えている。学校との調整が整ったところから実施していきたい。

メンバー

「まずやってみる」ことが大事。大阪市も最初は参加者が少なかった。少ない人数でも始めてみて、子どもたちの体験がほかの子どもたちや保護者へ広がっていく。それによって「うちの子も参加させたい」と考える保護者が増えていくと思う。最初から完璧に始める必要はない。

#### 事務局

大阪市の事例では、参加者が、昨年は40人程度であったが、今年は70人にもなっている。取り組んでいる方にその理由を聞いたところ、大阪市はすでに3年目の取り組みであり、今年は1年生の参加者が最も多いことから、兄弟の上の子が先に参加していて、その楽しそうな姿を下の子が見て、「私も小学校に入ったら参加したいな」と、楽しみにしていたからではないかと、いうことであった。「楽しさ」から広まったということ。

#### メンバー

- 小さな地区では、担い手の確保が非常に難しい。交流センターでの講座参加者に声掛けするなど、そこまでやらないと確保できない。
- 担い手は、月1回の参加で、週1回の事業実施が可能だというのが、準備を考えると、もう少し参加回数が必要。回数は隔週の実施など、もう少し減らしたほうが良い。

#### メンバー

- 事業の名称「みんなで…」が、習慣付けなどの目的と一致しない。
- 担い手を先に決めるのか、学校を先に決めるのか。ある程度の地域を絞って、担い手を探すのか。

#### 事務局

- 「みんなで…」は、いつでも希望すれば、参加できるよ、といった意味合いでの名称だと理解している。
- まず担い手の確保が最初で、次に担い手が実施しやすい学校に対し調整していくことを想定している。

#### メンバー

目的が最も大事。担い手の理解を得るためにも、もっとはっきりさせる必要がある。「朝ごはんの大切さ」ではインパクトが弱い。

#### メンバー

視察先のアンケート結果を見ると、子どもたちは「楽しい」とか、お母さん方は肯定的な声が多い。「みんなで朝ごはん」の良い面はいっぱいあるはず。「朝寝坊が減った」という回答もある。生活習慣を変えるきっかけにもなりうる。お母さん方にアピールできる点をはっきりさせたほうがよい。

#### メンバー

資料をみても、楽しそうな雰囲気が伝わってくる。まず、やってみてはどうか。私自身も子どもを送り出したいと思う。

メンバー

「楽しく」を目的に入れていけばよいのではないか。

メンバー

資料の1ページ目に「責任の所在は課題」という記載がある。最終的な責任はだれが負うのか、明確にしたうえで担い手にお願いしたほうが良い。

メンバー

個人負担は、50円で妥当だと思う。

メンバー

いつから事業を実施したいと考えているか。

事務局

担い手の確保が第一だと考えている。その後、学校や地域との調整が整ってから事業実施となる。現時点では、実施時期の想定はしていない。

メンバー

興味はある。(自分が)やってみるのも面白いと思っている。やる以上は、自分の地域のことだから率先してやらなくてはと思う。

メンバー

今日の資料を骨子にして、事業をPRできるものをつくることを考えているか。できれば、地域に広く知らせたい。

事務局

PRできる資料は必要だと考えている。地域に事業を知らせていくことが必要で、そこから担い手が広がることも考えられる。

メンバー

担い手は、個人的に探してもよいか。

事務局

負担でなければ、探していただけると助かる。

### (3) 閉会

以上